

温暖化とスーパー台風

2019年9月9日に首都圏を直撃した台風15号（ファクサイ）は記録的な暴風をもたらした。千葉市付近で最大瞬間風速57.5mを観測した。首都圏の交通は麻痺し、千葉県を中心に大規模停電が発生し、復旧に3週間を要することになった。

10月12～13日は台風19号（ハギビス）が上陸し、各地に甚大な被害をもたらした。

台風19号の被害

- ・堤防の決壊
7県、71河川、128カ所
- ・浸水被害
53000棟以上
- ・土砂災害
20都道府県、365カ所
- ・死者
82名、行方不明（11名）



温暖化との関係

- ①台風のエネルギー（燃料）は海洋熱。温暖化により海面だけでなく深海も暖められている。暖かい空気は多くの水蒸気を含むため、それをエネルギーに台風は強大化する。
- ②移動速度の低下。19号は36時間、スーパー台風（秒速67m以上）として存在。長時間滞在すれば被害はより大きくなる。移動速度が減速しているのは温暖化のため大気が循環しないことにも一因。
- ③今後、海洋熱に加えられた熱で強大化したストームは、もっと強大化して頻繁に起きる。（大気が1℃上昇すると水蒸気は7%増加する）



この問題への対処

台風は自然災害だが、スーパー台風は人災である。

「自然災害は、人間の力では食い止められないから、じっと耐えるしかない。災害・復興・災害・復興の繰り返し。」

しかし、記録上ないような台風、集中豪雨が増加し被害が甚大になっている状況、そしてそれらが温暖化と関係している状況を見れば、ただ耐えるのではなく、温暖化対策を強力に推し進める必要がある。

- ・国際機関での取り組みへの協力・・・パリ協定への積極的関与など
- ・国内での取り組み・・・気候非常事態宣言やSDGs未来都市宣言など
- ・個人の生活・・・日常生活での温暖化防止行動など。人間ができることは多くある。